

<研究抄録>

世界のコンテナ需要の長期見通し

成瀬 進

1. はじめに

ここ数年世界のコンテナ需要はアジア地域を中心に力強い成長を示している（表1参照）。しかし、この様な成長はいつまで続き、また予測される需要増に対して各港湾は対応できるであろうか。港湾関係者であれば誰でもこのような疑問を抱くが、世界のコンテナ予測を自ら実行するとすると、データにしてもその手法にしても制約条件あるいは限界が多いことがわかる。

そこで、自ら予測を行うのではなく、世界の研究機関や出版社、コンサルタントなどがどのように今後の需要増を見ているかを調査したのが本稿である。後述するように全世界を対象とした予測はそれほど多く公開されている訳ではなく、その補完の意味で世界の代表的な港湾管理者の需要予測についても調査を行った。

本稿の基礎となっているのは、国際港湾協会の港湾計画開発委員会が出版した報告書である。筆者はこの委員会の委員長を6年前から務めており、この報告書も協会会員の協力は得たものの実質的には筆者一人でとりまとめたものである。データ等が必ずしも最新ではないことはお許しをいただきたいが、本稿の内容が読者の業務上の何らかの参考となれば幸いである。

2. 世界のコンテナ予測

最初に国際的な研究機関が実施した世界を対象とする予測値を見ることにする。

2-1 Drewry Shipping Consultants Ltd.

この予測は、7年前程に発表されたもので、予測レンジも短いので現時点では余り参考にならないかもしれない。しかしながら、実績値の確定した2005年までと比較すると、世界トータルではかなり正確な予測となっていることがわかる（もちろん結果論ではあるが）。

表1-1 全世界の港湾におけるコンテナ取扱量

	'90	'95	'96	'97	'98	'99	2000	2001	2002	2003	2004	2005
mil TEU	85.6	137.2	150.8	160.7	169.6	203.2	231.7	243.8	276.6	299.3	351.1	382.6

Source : Containerisation International Yearbook (CI)

表2-1 Drewry社の予測

(Unit: million TEU)

	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
North America	34.2	37.5	40.0	42.6	44.6	46.3	47.5	48.9
West Europe	57.4	62.7	68.6	75.1	79.9	83.8	87.3	91.4
North	34.4	37.3	41.3	44.5	47.3	49.5	51.4	53.6
South	23.0	25.4	27.3	30.6	32.6	34.3	35.9	37.8
Far East	87.5	108.5	126.6	147.3	164.0	178.5	192.5	208.3
South East Asia	41.1	45.4	52.2	56.9	62.1	67.8	74.0	79.4
Mid-East	13.6	16.1	19.1	20.9	22.2	23.6	25.0	26.6
Latin America	19.2	21.3	24.1	26.1	27.9	29.8	31.8	34.0
Caribbean/C.Am	10.5	11.5	12.5	13.4	14.1	14.8	15.5	16.3
South America	8.7	9.8	11.6	12.7	13.8	15.0	16.3	17.7
Oceania	6.0	6.5	7.0	7.3	7.6	7.9	8.2	8.5
South Asia	6.6	7.2	7.7	8.5	9.3	10.2	11.1	12.1
Africa	8.5	9.7	11.5	12.1	12.7	13.4	14.1	14.9
Eastern Europe	1.7	2.1	2.5	2.8	3.0	3.3	3.5	3.8
World	275.9	317.0	359.4	399.6	433.4	464.5	495.2	527.9

表2-2 OSC社の予測

	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2010	2015
High Case									
North Europe	28.76	31.12	33.24	35.53	37.78	39.98	42.29	55.34	71.00
South Europe/Med.	22.28	24.26	25.78	27.40	29.16	31.03	32.98	43.24	54.74
M.East/Indian Sc	13.35	14.53	15.79	17.26	18.87	20.63	22.56	33.80	50.64
Sub Saharan Africa	3.98	4.16	4.52	4.93	5.36	5.84	6.26	8.79	12.24
East Asia	92.56	102.9	112.1	122.1	133.2	145.4	158.8	220.4	290.7
Australasia	4.45	4.71	5.00	5.32	5.65	6.00	6.38	9.11	12.36
North America	28.44	30.18	32.00	33.95	36.01	38.19	40.52	52.60	66.96
Caribbean/L. Amer.	15.84	17.66	19.23	20.95	22.83	24.89	27.16	38.68	52.37
Total	209.7	229.5	247.7	267.4	288.8	311.9	337.0	462.0	611.0
Low Case									
North Europe	28.76	31.12	33.05	35.11	37.13	38.91	40.85	51.44	63.31
South Europe/Med.	22.28	24.26	25.48	26.77	28.17	29.63	31.12	39.10	47.63
M. East/Indian Sc	13.35	14.53	15.76	16.66	17.59	18.57	19.62	25.24	32.51
Sub Saharan Africa	3.98	4.16	4.38	4.61	4.85	5.11	5.32	6.49	7.89
East Asia	92.56	102.9	109.6	116.8	124.5	133.0	142.2	189.2	241.9
Australasia	4.45	4.71	4.94	5.18	5.43	5.70	5.97	7.44	9.34
North America	28.44	30.18	31.65	33.20	34.82	36.53	38.33	48.64	58.33
Caribbea/L. Amer.	15.84	17.66	18.76	19.94	21.19	22.54	23.97	32.94	44.32
Total	209.7	229.5	243.6	258.2	273.7	290.0	307.4	400.5	505.3

2-2 Ocean Shipping Consultants Limited (OSC)

この予測はかなり Drewry 社に比べ予測レンジが長い。一方で、この予測も数年前に発表されたものであるため、ここ数年に経験した中国を中心とするすさまじい成長が予測に反映されておらず、最近数年の実績値と比べるとすでにかかなりの乖離が見られる。しかしながら、地域ごとの成長力の見方などには参考となるものがある。

2-3 Global Insight

Global Insight 社は既述の2社と違い海運港湾を専門に研究する機関ではなく、むしろ各種経済予測を得意とした著名なコンサルタントである。経済予測の一環として物流予測を行っており、その中にコンテナに関する予測がある（次表は港湾取扱ベースの値ではなくコンテナの純流動ベースの予測である）。

表2-3 Global Insight社の予測(1)

Service Type	2000-05	2005-10	2010-15	2015-24
Tanker	1.3%	2.6%	1.9%	0.9%
Dry Bulk	4.4%	3.5%	2.1%	1.2%
Container	8.3%	6.0%	5.1%	4.5%
General Cargo /Neo Bulk	3.0%	4.0%	3.1%	2.5%

2-4 United Nations Economic and Social Commission for Asian and the Pacific (ESCAP)

国連 UNESCAP は長年にわたり韓国のファンドを活用して本格的な予測モデルを構築して、域内と世界のコンテナ需要を予測している。総需要量とは別に、国別、主要港別の予測も行っているが、こちらは特に東アジアについてはファンド提供元の韓国に配慮したものとなっており、余り参考とはならない。

表2-4 UNESCAPの予測

(unit: million TEU)

	2002	2015
ESCAP Region(Asia & Oceania)	133.7	352.3
World	243.0	578.0

2-5 全世界を対象とした予測の相互比較

先に述べたように、これらの予測は数年前の実績までをベースとしており、ここ4、5年の中国を中心とする驚異的な伸びを実績として反映していないため、現時点で見ると実数はもとより伸び率についても控えめな感じが否めない。Drewry 以外の予測は（ここ数年の10%を超える実績に対して）年率6~7%の伸びを予測しているが、燃料価格の高騰や世界経済の将来動向などを考えると、今後のトレンドは案外このほうが正しいのかもしれない。

表 2-5 予測の相互比較

(unit: million TEU)

	Base Year	2005	2009	2015	Annual Growth Rate
Drewry	275.9 (2002)	399.6	527.9	-	9.7%
OSC (High Case)	229.5 (2000)	337.0	462.0	611.0 (high case)	6.7%
(Low Case)	229.5 (2000)	307.4	400.5	505.3 (low case)	5.4%
229.5 (2000)					
Global Insight	(2003)				6.5% (6.0% *)
ESCAP	243 (2002)	-	-	578	6.9%

*: The original forecast is approximately 6.0% through 2024.

3. 地域、国、港湾ごとの予測値

3-1 地域、港湾別の推計

先に述べたとおり、調査を開始するまでは世界的な予測値は相当例が発表され、入手可能と考えていた。ところが実際に当たってみると予測例は余り多く存在せず、既述した4例を入手するにとどまった。そこで、議論をより興味深くするため世界の代表的な港湾管理者に質問表を出し（実際は、国際港湾協会の会員である港湾管理者あて）、それぞれの将来需要の見方を聞いた。結果的には20余りの程度の回答が寄せられたが、これらうち読者に興味深いと思われる国と港湾についてとりまとめた。

3-2 アジア・オセアニア地域

(1) 香港

港湾管理者がコンサルタントを雇用して予測を実施し、以下の数値を得ている（ハイケースの場合の数値である）。

表 3-1 香港

Growth Rate	Volume in TEU m			
(02-20)	2005	2010	2015	2020
4.2%	23.44*	27.94	35.74	40.23

*:実績値はCIより

(2) 上海港

上海港では港湾管理者の長期的な予測は発表されておらず、短期の予測が発表されている。

表 3-2 上海港

Growth Rate	Volume in TEU m				
(06-10)	2006	2007	2008	2009	2010
9.3%	21.05	24	26	28	30

(3) 日本

国土交通省の発表した数値である。

表 3-3 日本

Growth Rate	Volume in TEU m		
(02-15)	2001	2015	2020
3.4%-4.5%	12.5	20-23	22-26

(4) 韓国

韓国も海洋水産部が以下の推計を行っている。

表 3-4 韓国

Growth Rate	Volume in TEU m			
(06-20)	2006	2010	2015	2020
7.7%	16.7	23.8	35.4	47.4

*:実績値はCIより

(5) インド

インド政府の予測であり、以下に示すのはGDPが7%成長の場合の数値である（他に6%と8%についても実施している）。非常に高い数値となっているが、これは「現実的予測」と言うよりむしろ「希望的な予想」と捉えた方が妥当であろう（インドでは良くあることであるが）。

表 3-5 インド

Growth Rate	Volume in TEU m				
(02-26)	2005	2011	2016	2021	2026
14.2%	4.3*	10.7	21.2	40.4	73.7

*:実績値はCIより

(6) オーストラリア

オーストラリアの運輸省が以下の予測を行っている。

表 3-6 オーストラリア

Growth Rate	Volume in TEU m	
(01-10)	2001-02	2010-11
5.6%	2.2	3.8

3-2 ヨーロッパ・アフリカ

(1) ハンブルグ港

港湾管理者が以下の予測を行っている。

表 3-7 ハンブルグ港

Growth Rate	Volume in TEU m		
(05-15)	2005	2015	
8.3%	8.1	18.0	

(2) アントワープ港

港湾管理者が以下の推計を行っている。他の例とは異なり、メトリックトンベースである。

表 3-8 アントワープ港

Growth Rate	Volume in TEU m		
(04-20)	2004	2015	2020
6.4%	68.3	144.9	183.2

(3) スペイン

スペインの港湾局が以下の推計を行っている。

表 3-9 スペイン

Growth Rate	Volume in TEU m			
(04-20)	2004	2007	2010	2020
7.3%	7.8*	12.1	15.3	23.9

*: 筆者の推定

(4) アフリカサブサハラ地域

モーリシャスの運輸省より以下の予測の提供を受けた。

表 3-10 アフリカサブサハラ地域

Growth Rate	Volume in TEU m		
(06-20)	2006	2015	2020
7.9%	1.40	2.89	4.04

3-3 アメリカ大陸

(1) ロサンジェルス・ロングビーチ

両港の港湾管理者が共同でコンサルタントを雇用し、以下の予測を発表している。予測のベース年次が古く、現在再度調査を行っているとのことである。

表 3-11 ロサンジェルス・ロングビーチ港

Growth Rate	Volume in TEU m			
(05-20)	2005	2010	2015	2020
6.4%	14.2*	16.7	24.4	36.2

*: 実績は CI.

(2) ヒューストン

ベイポート地区に新規のコンテナターミナルの開発を行っており、米国の港湾にしては希少な強気の予測である。

表 3-12 ヒューストン港

Growth Rate
(05-10)
9.1%

(3) モントリオール港

港湾管理者の予測である。

表 3-13 モントリオール港

Growth Rate
(05-15)
4%

(4) 北米全体

ヒューストン港からは、全米港湾協会がグローバルインサイトに委託して実施した北米全体を対象とする予測値の提供を受けた。メトリックトンベースの予測である。

表 3-14 北米大陸

Growth Rate	Volume in TEU m				
(00-20)	2000	2005	2010	2015	2020
4.8%	151	201	253	316	388

4. 相互比較

先に述べたように、全世界を対象とした予測では年率6~7%成長というのが一般的な見方であるが、ここ数年の急成長と今後の世界経済の動向でこの予測値も大きく影響されると考えられる。

国別、港別の予測を見ると（数少ない予測値からの考察であるが）以下のような指摘ができる。

- ・ 成長の核である東アジアは依然として強気の予測が多く、またヨーロッパ北部もかなりの高成長を見込んでいる。
- ・ これは、ヨーロッパ北部の港湾が激しい港間競争を行っている（例えば、ロッテルダム港、ハンブルグ港、アントワープ港、ルアーブル港などの競争）ことを踏まえれば、純粹の予測と言うよりむしろ目標値と捉えるべきである。

- 一方で、アメリカの港湾はヒューストン港など一部の港湾を除き控えめな予測である。これは、主に環境保全の必要性から港湾開発に対する規制が著しく強化されており、港湾施設の供給面で本来の需要に対応できない恐れにまで立ち至っていることを反映している。

以下に、全世界及び各国各港の予測伸び率の一覧表を掲載する。なお、本表には参考のため国際的な研究機関が実施した地域別の数値も掲載している。

3-15 コンテナ需要予測比較表（年成長率）

Region	Country/Economy	Year	Growth Rate	Forecast Institution
World		2002-2009	9.7%	Drewry
		2000-2015	5.4% - 6.7%	OSC
		2003-2015	6.5%	Global Insight
		2002-2015	6.9%	UNESCAP
Asia & Oceania	Asia & Oceania	2002-2015	7.7%	UNESCAP
	East Asia	2004-2015	6.6% - 7.7%	OSC
	Hong Kong	2005-2015	4.8%	Original
	Shanghai Port	2006-2010	9.3%	Original
	Japanese ports	2002-2015	3.4% - 4.5%	Original
	Korean Ports	2006-2015	8.7%	Original
	Indian ports	2005-2016	15.6%	Original
	Australia	2001-2010	5.6%	Original
Europe & Africa	North Continent West	2004-2015	6.0%	OSC
	Hamburg	2005-2015	8.3%	Original
	Antwerp	2004-2015	7.1%	Original
	Spanish ports	2004-2015	8.7%	Original
	Malta	2005-2010	18% - 28%	Original
	Sub Sahara	2006-2015	8.4%	OSC
Americas	Ports in N & S Americas	2000-2015	5.2% - 6.3%	OSC
	U.S. ports	2005-2015	4.2%	Global Insight
	LA/LA	2005-2015	5.6%	Original
	Houston	2005-2010	9.1%	Original
	Montreal	2005-2015	4%	Original

5. さいごに

本稿は筆者が国際港湾協会の計画開発委員会の委員長として取りまとめを行い、会員に出版した小冊子の概要である。他の機関が実施した予測値をその背景などを精査せず比較しても意味がないと言うご批判は十分承知をしているが、少なくとも各国、各港の将来動向の見方についてのよい参考資料にはなると考えている。

我が国の港湾は成長の中心である東アジアに位置し、今後韓国や中国の港湾とのさらに激しい競争に巻き込まれていくことは必至である。このため競争力強化のため様々な施策が実施され、関係機関が一丸となって努力をされている。一方で、このような作業を通じて痛感するのは、

港湾の直接的な競争力強化のみではなく、知的な分野でアジアの港湾をリードすることができないかということである。例えば、我が国が少なくともアジア各国をカバーするようなコンテナの需要予測を行い（勿論 UNESCAP のように特定国に偏ったものでなく、純理論的な予測値が必要であるが）、これを基にアジア全域の港湾開発戦略を立て、一部は政府開発援助に結びつけたり一部は各国と協調政策を立案したりできないかと考えている。ちょうどかつての海運国イギリスが、量的には周辺国に追い抜かれながら、知識の分野では、いまだに IMO（国際海事機関）などの国際機関やこの分野の主要研究機関・コンサルタントが集中し、世界の情報発信源となっているように。

（なるせ すすむ 常務理事）